

過疎の医療現状は

岡山大など
地域枠学生ら
真庭で課題学ぶ

医師不足に悩む地域
での医療人材の育成を
目指し、県が岡山大と
広島大の医学部に設け
ている「地域枠」の学
生と自治医科大学の学
生と「合同セミナー」が19
日、真庭市などで2日
間の日程で始まった。

岡山大33人、広島大
11人、自治医科大学13人
の1〜6年生が参加。
初日は2班に分かれ、
同市内と岡山大鹿田キ
ヤンパス（岡山市）で
講話や施設見学、蘇生
実習などに臨んだ。
真庭市西原の金田病
院では、人口減少が進
む地域の病院経営につ
いて金田道弘理事長が
説明。近くの落合病院
と診療科のすみ分けや
休日救急の分担を行っ
ていることなどを紹介
し、「地域内で医療資源
の適正配置を図り、医
療ニーズと供給体制の



金田病院内を
見学する学生
たち＝真庭市
西原

ている」と
述べた。

4月から
金田病院に
勤務する地
域枠1期生
の山本高史
医師26は
“先輩”と
してアドバ
イスした。

ミスマッチを解消して
経営の安定化につなげ

高梁市出身の岡山大3
年滝口隆章さん(21)は
「過疎地域が抱える医
療課題と向き合う病院
の現状がよく分かり、
参考になった」と話し
た。

合同セミナーは県地
域医療支援センターが
毎年開き6回目。20日
は、真庭市湯原温泉の
ホテルで太田昇市長の
講話や医療面接のワー
クショップなどがあ
る。(小原一穂)